

1. 会長挨拶
2. 全国大会のお知らせ
3. 総会のお知らせ
4. 懇親会のお知らせ
5. その他

会 長 挨 拶

猛暑が続きますが、みなさまにはお元気でお過ごしのことと拝察します。

さて、ご案内のとおり、大会・総会が9月23日に開催の運びとなりました。研究成果公表や情報交換の絶好の機会なのはもちろんですし、学会ホームページの充実策や新方式による大会・総会のこれからなどについて語り合う貴重な場でもあります。万障お繰り合わせのうえ、ご参加いただければ幸いです。

生 田 省 悟

論集について

第18巻『十七世紀の革命 / 革命の十七世紀』につき、3月末に締め切りましたが、幸い14編の力作が集まりました。編集委員による査読を経て、修正原稿が返却されてきましたので、6月17日（土）に、全てのファイルを金星堂に入稿いたしました。早速、校正作業に入っていただけるそうですので、

9月上旬あたりには刊行予定です。全国大会当日には、実物をご覧になれることと思いますので、会員の皆さまには、この論集を継続していくためにも、ぜひ1冊購入をお願いいたします。

佐々木 和貴

委員・事務局

* 会 長：生田 省悟

* 論集編集委員長：佐々木 和貴

* 本部事務局：川田 潤

* 本部会計：梶 理和子

* 東北支部事務局：川崎 和基・古河 美喜子

* 東京支部事務局：伊澤 高志・松田 幸子

* 関西支部事務局：金崎 八重・大久保 友博

* 学会ホームページ担当：山本 真司

平成29年度全国大会（第6回）のお知らせ

日時：2017年9月23日（土）15:00～17:00

（発表時間は各25分＋質疑応答各10分＋休憩5分）

場所：立正大学品川キャンパス 9号館4階 942教室

<http://www.ris.ac.jp/access/shinagawa/index.html>

1 15:05～15:40 司会 佐々木 和貴

Sir Philip Sidney と Lady Mary Wroth を繋ぐ corona

青木 愛美

1591年にSir Philip Sidney (1554-1568) のソネット連作 *Astrophil and Stella* が出版され、イングランドにおけるソネットの流行が始まった。それから30年、既にソネットの流行が終息した1621年にSidneyの姪Lady Mary Wroth (1587-1651/3) は *Pamphilia to Amphilanthus* というタイトルのソネット連作を出版した。Wrothの作品が総体としてSidneyの作品の模倣であることはそのタイトルからも明らかであるが、Wrothの模倣的特徴は他にもある。Sidneyは *The Old Arcadia* の中で‘dizain’と呼ばれる10行連によって *corona* を作り上げているが、Wrothの連作中にも *corona* の形式で書かれているソネット群が存在する。*Corona* という形式は、先行する詩の最終行が次に続く詩の初めの行に引き継がれ、最終的に *corona* 内の最後の詩の最終行が初めの詩の1行目に戻る特徴を持つ。ソネットであるかどうかの違いは意識せざるを得ないにせよ、*corona* がPhilip SidneyとMary Wrothの2人を繋ぐ鍵の1つとなる。両者の *corona* を読み解くことで、*corona* という形式が持つ意味や意義、ひいてはSidney家の一員としてのWrothの自己意識について考察したい。

2 15:45～16:20 司会 金崎八重

テキストとイメージ、モノの饗宴

— 17世紀前半期英国バンケット・トレンチャーの文学的社会的効用—

山本 真司

近年、テキストとイメージに関する研究の一分野としてエンブレムの関連書が次々に出版されているが、エンブレム等の図像を応用した装飾美術にまで対象を拡大した研究はまだその端緒に就いたばかりである。本発表では、テキストとイメージの関係のみならず、それらが当時モノとしてどのように受容されたかという物質文化的コンテキストにも目を配りながら、初期近代英国の文学活動において社会的相互作用が急速に重要度を増す中で寓意図像が大衆化していく過程を検討する。具体的には、16世紀後半から17世紀半ばにかけて英国で独自の発展を遂げたバンケット・トレンチャー（デザート用装飾木皿）に焦点を当て、主にその文学的社会的効用について、テキスト/イメージを読み・唄い・贈る余興文化の一側面として、新大陸交易の勃興と底流にながれる聖書とことわざという社会的文化的背景を考慮に入れながら考察する。

3 16:25～17:00 司会 伊澤高志

Julius Caesar における民衆

神山さふみ

本発表の目的は、*Julius Caesar* (1599) に描かれるローマの政治の転換点を民衆に光をあてて考察することである。1599年のイングランドは、エリザベス女王治世の末期であり、エセックス伯を巡る政治的緊張もあったことから、Caesar 弑殺は危険を孕むテーマだった。こうした事情から、*Julius Caesar* は、王も神もない世界で民衆が声 (vote/voice) を持つとどうなるのか、という実験を行っていると考えられる。

まず、*Julius Caesar* の民衆は、Shakespeare オリジナルの〈民衆〉というキャラクターの典型であることを考察する。次に、Cobbler—機知に富む明るい道化—が率いる民衆を手掛かりに、劇中の政治世界を分析してゆく。「共和政の父」の家名を継承する Brutus は、Caesar を暗殺し、共和政の再生を企てるが、民衆の声を得られず失脚する。一方、Antony は、移り気な民衆を雄弁術で扇動し王政への礎を築く。結論として、劇中一貫して民衆を王政派に仕立てることによって、*Julius Caesar* は宮廷に寄り添う立場にあるということを観客に示すことになる。

平成29年度総会のお知らせ

- 日時：2017年9月23日(土) 17:15～17:45(全国大会終了後)

- 場所：立正大学品川キャンパス 9号館4階 942教室（全国大会と同じ会場）

総 会 次 第

【報告・連絡事項】

- 1 各支部活動報告
- 2 編集委員会報告
- 3 2016年度会計報告（資料は当日）
- 4 その他

【審 議 事 項】

- 1 新会長について
- 2 新事務局について
- 3 会員名簿の取り扱いについて
- 4 その他

懇親会のお知らせ

本年度の懇親会は、大会・総会と同じ立正大学の学生食堂（スエヒロ）で開催いたします。本年度はさまざまなことが新しく始まる年となりますので、ぜひご参加いただき、会員同士の意見交換、情報交換などをお願いいたします。

- 日時：2017年9月23日（土）18:00～20:00
- 場所：立正大学品川キャンパス 6号館1階 学生食堂（スエヒロ）
- 会費：5,000円
- 出欠：一昨年度より日本英文学会等に倣い、出席の方のみ、メールをお願いいたしております。
9月11日までに各支部事務局にお知らせください。12日以降、出欠の変更等がある場合、各支部事務局までお願い致します。



JR 大崎駅と五反田
駅から徒歩 5 分

